

# ゆうばえ

発行日:2023年5月1日  
(2023年5月-6月号)  
発行人:小川マキ  
〒950-2172  
新潟市西区内野上新町11810番地3  
TEL 代表 (025) 264-5000  
FAX (025) 261-4430  
在宅ケアセンターゆうばえ内

＊  
ときの話題

### 夕映えの会第31回総会のご案内

5月21日(日)午前10時

西コミセン



夕映えの会事務局長  
神立 秀明

30年前に産声を上げた「夕映えの会」、住み慣れた地域で安心して暮らせる支え合いのある地域づくりをめざして、生活支援活動と配食活動の2本の柱の活動に取り組んできました。そして施設づくり運動、学習会等々地域の皆さんの声に沿いながら活動を続けてまいりました。30年の大きな節目に際して、今後の夕映えの会のすむ方向を吟味しなければならぬと考えています。その意味で、今回の総会は大変重要で大切な総会です。

#### 夕映えの会、

#### 支える側から、支えられる側へ

夕映えの会が30年の長きにわたって活動を継続していることは十分評価できることです。地域で必要とされていた活動を行ってきた証であると思います。

しかし大事なことは、長い年月の中で多くの会員の皆さんが「支える・お世話する側」から「支えてもらう側」に替わりつつあることです。30年間のこの変化は、夕映えの会の今後を考える際の重要なポイントです。

### 人生100年時代 会員の興味に合わせた 多彩な日常活動を展開

新型コロナウイルス感染症は2類から5類に代わりますが、感染のピークがまた再来しそうです。気持ちを緩めずしっかりと感染対策をしながらの活動となりそうです。

次年度に向けた夕映えの会の総会方針案を紹介します。従来の生活支援活動、配食活動、またふれあい昼食会などの活動に加え、次年度の特徴的な取り組みは以下の通りです。

#### ゆうばえゼミナールの開講

1点目は前号での紹介されました「ゆうばえゼミナール」の開催です。お世話する活動から少し趣を変えた、地域を知る活動です。「暮らしている地域を知りたい」は、人生100年時代の知的好奇心に応える活動です。地域を知ることにより地域愛をかもし出すとともに、人のつながりもつくり将来的には地域づくりにつながることを期待します。

また大地震等に備える防災講演、訪問販売・詐欺商法への啓発活動、心と体の健康づくりなど会員の興味に合わせた多彩な日常活動を展開します。

#### 映画「ぼけますから、

#### よろしくお願ひします。」

上映運動に取り組みます  
2点目は認知症に関わる活動です。

認知症の母を高齢の父が介護生活する1200日間を、娘の信友直子さんが記録したドキュメンタリー映画です。

高齢者の5人に1人は認知症といわれる時代。だれが認知症になってもおかしくなく、

それ故に認知症になっても住みなれた地域で暮らし続けられる地域づくりが必要になって

います。このことは認知症の方だけの問題でなく、高齢者や障害者の方にも安心して生活できるやさしい地域づくりが必要です。映画の上映に合わせて、認知症に関わる講演会の企画を検討しています。

#### 会員訪問活動

3点目は、夕映えの会の会作り。仲間増やし

とともに会員の要望などお聞きする、会員訪問を取り組みたいと思います。



配食活動のひとコマ



# 「新川橋物語」 第十四回 「榎尾大橋と六地山遺跡」

越後新川まちおこしの会  
世話人 加藤 功

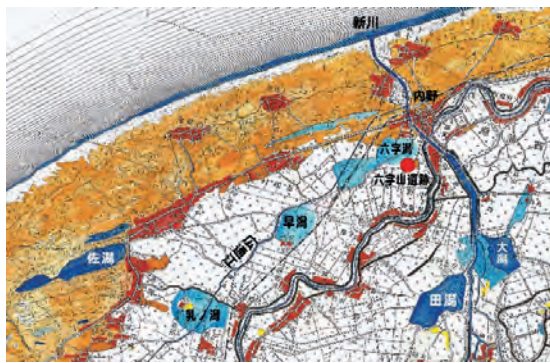


『榎尾大橋』は昭和42年に、国道116号線（現在の西大通り）が開通した時架けられた橋です。この橋の10m下流に、全国的にも有名な新川と西川の立体交差を見学できる場所がありますが、この橋を通過する車の多くは、それを知らずに通過しています。

橋は、都市計画区域内にあり、新潟西バイパス高山ICへの右折車線を備えた片道一車線ながら、両側に3mの歩道を備えた、幅16.4m、長さ78mの鋼板桁橋です。

昭和40年代後半に通った際、なんでこんな田舎にこの様な大きな橋が架けられたのか不思議でしたが、西バイパスに直結する幹線道路だけに、現在の車社会を見据えた道

路設計者に敬意を表するものです。かつて川では、対岸に人や物を運ぶために船によるワタシがありました。榎尾交差点近くの西川にもワタシがあり、渡船して対岸に渡っていました。だが新川は開削の際、土地を提供してくれた村々との約束で、最初から新川に8本の橋が架けられていました。現在は、新川13.5km間には、29本の橋（歩道橋・鉄道橋梁を含む）が架かっています。この榎尾交差点近くに、角田山から延びる砂丘と西川との間に、通称・広通江とよばれる排水路が、西川に流れ込んでいました。その流路には、上堰瀧からの乳ノ瀧、佐瀧からの早瀧、そして六地瀧が連なり、榎尾大橋より300mの六地瀧の縁に、かつて六地山遺跡がありました。



明治以前の地図では、六地山や六地瀧を、六字山、六字瀧と記載

## 『六地山遺跡』

六地山遺跡は、昭和31年、新潟市域で最初に本格的に発掘調査された遺跡です。燕市の真島衛氏が経費を負担し、長岡市立科学博物館の中村孝三郎氏が学術調査を実施し、弥生時代を中心として、奈良・平安時代、中世の遺物も出土しています。

その後国道116号線の通過などに伴い、開発行為による影響が認められるため、新潟市教育委員会が昭和57年と59年に再調査を実施しました。



六地山遺跡が出土した新砂丘Iの微高地 (昭和31年撮影)

現在は、現地に行って周囲を眺めてみても想像もつかないくらい真っ平な水田地帯になってしまっています。昭和30年代当時は西蒲原の沖積平野に、標高3m程の砂丘列（新砂丘I）の微高地が残っており、そこから出土しました。

31年の調査では、その一帯より土器片と、全体が復元できる土器

12点が出土しました。

土器の形は、煮炊きに使う甕（かめ）、物を入れる壺（つぼ）、盛り付けに使う高坏（たかつき）、赤色顔料で模様が付けられた高坏もありました。他に、アメリカ式石鏟（せきぞく）50点と斧（おの）が出土し石器を作った際の石片も発見されました。

この調査では、モミの痕が付いた土器片が八点発見され、弥生時代後期の越後新潟で米作りが行われていた事が証明されました。また狩りの用具の石鏟が多数発掘されたことから、狩猟の対象となる動物が、この付近に生息していたことが推測されます。



新潟市歴史博物館に展示の六地山遺跡出土品

弥生時代後期前半の越後平野の様相を示す代表的資料と評価され、調査で出土した土器は、新潟市歴史博物館で常設展示されています。下記の二次元コード

より橋と遺跡の映像がご覧いただけます。





### 「キャベツと卵のあえ物」

五十嵐真理子 (坂井輪)

#### 材料 2人分

- ・キャベツ …… 120g
- ・卵 …… 1個
- ・塩 …… 適量
- ・サラダ油 …… 大さじ2
- ・ごま油 …… 小さじ1

#### 作り方

- ① キャベツは塩小さじ1を入れた2リットルの熱湯で2～3分茹で、ザルに上げて軽くしぼる。
- ② 卵はよく溶きほぐして、塩ひとつまみを混ぜる。フライパンを傾けてサラダ油を強火で熱し卵を入れて木べらなどでざっくり混ぜふんわりと火をとおす。
- ③ ボウルに①と②を合わせ塩をひとつまみとごま油を加えてあえる。



※これから春キャベツの時期。  
柔らかい春キャベツで作るととても美味しいです。お試しください。

## 地域の声・話題コーナー

### お元気会の予定

#### 5月

と き 5月25日(木) 10:00~11:30  
 ところ 西コミセン  
 内 容 民謡を聞いたり踊ったり

#### 6月

と き 6月29日(木) 10:00~11:30  
 ところ 西コミセン  
 内 容 体操とお口のケア

### 西が丘の桜とシバザクラ



広通川左岸に広がる桜(ソメイヨシノ)とシバザクラが見事に咲きました。右岸にもソメイヨシノが植えられており川を挟んでの桜とシバザクラの「美の競演」といったところ。

西が丘自治会の皆さんが手づくりで作上げた「花壇」と聞きました。お花見の名所になりました。そうです!

## 団体さん のらっしゅ〜ん

地域の茶の間シリーズ  
**内野山手 地域の茶の間**  
**桜と気ままな写真展**

内野山手自治会の地域の茶の間は、「近隣の町内会のどなたでも参加して」と呼びかけています。それは多士多彩な方たちが集まり交流する場が、必要と考えたからです。「桜と気ままな写真展」は桜の咲く前に、写真で桜を楽しむと同時に、とっておきの写真を披露していただこうと、内野まちづくりセンターの地域交流スペースで開催され、今年で4回を数えます。今回は17名の方が合計60点ほどの写真を出展して下さいました。

下の写真は五十嵐2の町在住の若杉元さんが撮影した「新発田城址公園の桜」です。お城の石垣から桜があふれ、お城の威容とともに降りそそぐ花に圧倒されます。



写真マニアの傑作は人に見てもらってこそ。作品を展示できるギャラリーが減ってくる中で、マニアたちの熱い思いが詰まっている写真展です。

地域の茶の間ではほかに健康体操やカラオケ、スマホ教室なども企画します。興味のある方は是非ご参加ください。久保田昌照

高齢者に学ぶ伝統食づくり

第十一回 醤油赤飯



デイサービスセンター ゆうばえ 井口 真紀

新潟に嫁ぎ、驚いた食べ物ベスト3の一つがこの「醤油赤飯」です。(因みに、他はお餅の見えないお雑煮と麴で作る甘酒です...) 私の育った北海道のお赤飯は、食紅で薄ピンクに色付けられ、甘納豆が入っています。でも、夫の実家で「お赤飯」と言ってお出された物は、醤油色の茶色いご飯...

とても驚いた事を思い出します。習う事もないまま義母が急逝し、自分では作れないなあと思っ... 機会ができました。といっても、



お米によっていろいろ変わってくる... 先生達は「豆は一晚ポットのお湯に入れておけば煮る必要はない。硬ければ蒸かす時間を長くし、味が薄ければ途中塩水で調整すればいいから、こんな簡単なものはない」と言われます。

お米を蒸かしている間のおしゃべりも楽しい時間です。「もち米だけでなく、うるち米を2割ほど混ぜるといい」「息子が豆をよけて食べていた」「子供たちの食べ盛りの頃は大量に作った」「子ども達の友達も喜んで食べた」、など皆さん懐かしそうに口々に話されています。

各家庭に「家の味」があり、代々受け継がれている食文化... ばらしいなあと思つづく感じがたたくさんあります。デイサービスの先生達、これからもよろしくお祈りします!

新型コロナ、5類感染症になってもご用心!

5月8日に憎つきコロナが5類感染症となります。インフルエンザと同じ部類に入ることになります。

今のコロナ株はXBB.1.5。これと感染力が同等かそれ以上の感染株が現れても今の免疫力が有効と判断されているようです。

でもやはり高血圧などの基礎疾患を持つ高齢者は要注意です。今後65歳以上の高齢者には無条件にワクチン接種券が送られてくることになっており自己判断ですが、ワクチン接種は検討していただきたいと思えます。まだ無料の措置が継続されます。

そしてマスクなど必要な感染対策はやはり続けた方が良いでしょう。もう少しの辛抱です。

編集部 小熊まさみ

Information

ゆうばえ新聞 通信員大募集

お住いの地域のとおき情報をお知らせください。

春から初夏へ、季節が変わっていきこうとして... ペットの可愛い様子や季節の花々など写真一枚を添えてお送りください。

編集責任者 高橋 実

電話 025-264-5000 ゆうえい会

携帯 090-2661-8249

メール takahashi\_m@niigata-min.or.jp

【配食事業部】 070-4453-5228 (小島)

見守りとあわせて食の確保をお手伝いさせていただきます。込み合っていますので、利用日のご相談をさせていただきます。

【生活支援】 070-4314-3980 (神立)

夕映えの会の助け合い活動で、草取りやお買いもの・お出かけ等の移動支援を行なっています。お気軽にご相談下さい。

編集後記

父の一周忌に際して角田・弥彦の良く見える場所にお墓を移転しました。周囲に植えたウバメガシは充分な生け垣になり強風を遮ってくれます。さらに堀端に植えた柳は立派な成木になりました。お墓と柳ごしに見える山容を日々楽しんでいきます。五十嵐西に暮らし、俳句を作り続けた中村かつるさん(故人)の第二句集『風の行方』に柳を詠んだ四句があります。「柳の芽揺れつつ色を深めゆく」数ミリにも満たない枝先にも新芽が芽生える不思議。「川風を抱いては放す柳かな」揺れる柳の枝葉に風を見ています。「柳の芽風やわらかくなりけり」強風にさらされたひと冬が終り、春の訪れを柳の芽に見ています。「雨にけむり風にけむり柳の芽」季節の移ろいの中で変わる柳の表情。若葉輝く五月です。(M記)